



高橋教授の

# この人に 会いたい

Vol.99

ゲスト

# 橋本将吉氏

株式会社リーフェホールディングス  
代表取締役医師

医学生のための個別指導塾「医学生道場」をご存じだろうか。医学生道場では、医学生一人一人の課題に寄り添い、担任教務と医師講師が協働して支援する教育モデルを展開している。「潜在的な力を引き出し、次世代の医療人材へ育てる」ことが、日本の医療の持続可能性を高める最良の方法と考える株式会社リーフェホールディングスの橋本将吉代表取締役。対談では、その橋本社長を高橋泰教授が直撃。「医学生道場」では何を教えるのか、今の医学生との向き合い方などについて語り合った。

## 医学生が直面する現実と、 病院経営者が知るべき世代間ギャップ

### 現役の医師が講師を務める 医学生道場

高橋 本日は、医師による医学生のための個別指導塾「医学生道場」を主宰されている橋本将吉先生をお招きしました。医学生道場は、医学部に入学した学生が進級試験や国家試験、あるいは休学や復学といった壁に直面した際に、現役医師がマンツーマンで支援する教育機関です。品川、吉祥寺、新宿、秋葉原、名古屋、大阪、難波、福岡に道場を展開し、通信教育も整備され、1、2年生の進級試

験、CBT・OSCE、5年生のポリクリ、6年生の国家試験などに対応されています。病院経営者の方々ととって、将来の医師人材をどう確保し、どう育てるかは最大の関心事ですが、その土台にこうした「教育の裏方」があることをご存知の方は少ないかもしれません。私も最近、この医学生道場の存在を知り、「医学部の勉強を教える塾があるんだ」と驚き、その内容を更に知りたいと思い、今回の対談に至りました。今日は、医学生がどのような状況に置かれているのか、そして病院経営者やベテ

ラン医師がどのように若い医師と向き合えばよいのか、橋本先生とじっくり語りしたいと思います。まず、橋本先生が医学生道場を立ち上げられた経緯を教えてください。橋本 私は1986年生まれで、医学部5年生のポリクリ(臨床実習)の時に、同級生や先輩が「勉強の仕方が分からない」「進級に失敗しそう」「人間関係に悩んでいる」といった問題を抱えていました。私は以前から家庭教師のアルバイトを通じて教育の力を実感しており、これを仕組みにすれば支えられる学生は多いと考え、医

学部5年生の2011年に一念発起して医学部生教育を目的とする株式会社リーフェを創業しました。その後、会社を続けながら北海道の医療僻地域で研修医をしていた際に、地域医療の厳しい現実を目の当たりにしました。産婦人科の後継者不足に直面した地域で、道場を通じて後継者を育てた経験もあります。教育が地域医療の未来を左右することを痛感し、2015年に医学生道場を本格的に拡大することを決意しました。高橋 医学部受験のための医学部受験予備校と比べると、道場は何

撮影=関口宏紀

が違うのでしょうか。

橋本 医学生道場は「医学部に入った後でつまづいた学生」に特化している点が違います。受験はあくまで入口で、入学後の学びは全く性質が異なります。そこで失敗し、留年や休学に追い込まれる学生が少なくありません。私たちは、現役の医師が講師となり、一人一人の悩みに寄り添います。知識だけでなく、メンタル面の支えも含めて伴走するのが特徴です。高橋 個別指導だからこそこできる

支援があるわけですね。

橋本 はい。例えば、同じ「国家試験対策」といっても、暗記が得意で知識が不足している学生と、勉強のやり方自体が分からない学生とではアプローチが全く違います。加えて、精神的に不安定な学生には「勉強以前に自己肯定感を回復させる」支援が必要です。画一的な授業では対応できない部分を、一対一だからこそ丁寧にフォローできます。

高橋 なるほど。我々の世代から

すると「最近の学生は打たれ弱い」との印象があります。橋本先生から見て、今の医学生の世代の特徴はどのようなものでしょうか。

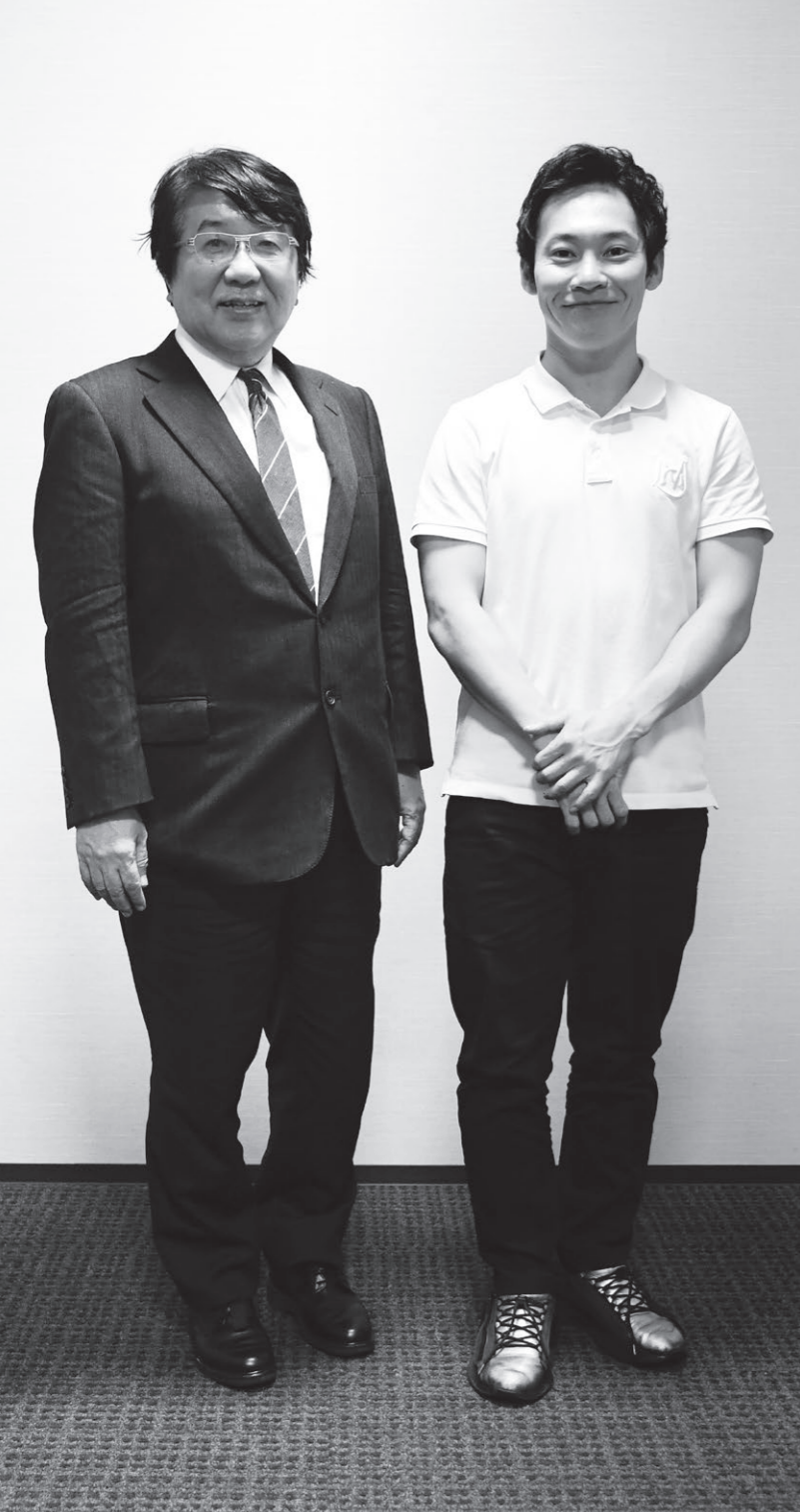
橋本 今の医学生は、生まれたときからスマホやタブレットが身近にあり、「アンパンマン」をiPadで見せられていた世代です。自分たちより上の世代は、絵本を与えられて、興味を持ったら図鑑を見たりしていたと思いますが、ボタンを押したら情報が表示される時代ですので、以前とは全く

違った環境で育っています。情報は「自分で探す」のではなく「与えられる」ものとして育ちました。Google検索が当たり前で、さらに今ではAIが「おすすめ」を提示してくれる。こうした変化が彼らの思考に強い影響を与え、主体的に調べる経験が少ないため、思考の深まりに欠ける傾向があります。一方で、ITリテラシーは非常に高い。オンライン授業やリモート指導への適応も早く、デジタル機器を駆使する能力は我々以上です。ただし、試行錯誤する経験が少ないため、臨床現場で壁にぶつかると脆さが露呈しやすい。ここに世代間のギャップが存在しています。

### 勉強の仕方が分からない 医学生

高橋 勉強の仕方が分からないという学生が多いと聞きます。

橋本 はい。受験勉強は「穴を埋める」スタイルですが、医学部の学びは構造が異なります。細胞学、生理学、病理学など多様な領域を横断的に関連づけなければなら





# 「愛」が必要

——阿南

## 医学生を救い出すためには

ず、知識を積み重ねるだけでは理解できません。ここで立ち往生する学生は多いのです。さらに、試験対策が「解説付き」が当たり前になったため、間違いから自力で考える習慣が乏しい。解説がついてくるサービスが一般的になりすぎて、考えて思考を深くすることが不得手になっていくのです。テレビゲームで「攻略本を読んてから買う世代」と言えば分かりやすいでしょう。「攻略できないと怖い」という発想で、挑戦そのものを避ける傾向すらあります。

高橋 なるほど。我々が若い頃は、現場で叱責されながら学んだものです。

橋本 今の学生はその経験がほとんどありません。厳しい言葉に耐える訓練がないため、研修医になつて患者さんや先輩から厳しく指摘されると、精神的にもろくなつてしまいます。最悪の場合は自殺に至る例もあります。だからこそ、知識と並行してメンタルの鍛錬を意図的に行う必要があるの

高橋 最後は何いたいの、我々ベテラン医師は、こうした若手とどのように接したらよいでしょうか。

## 「愛」

### 医学生が求めるものは

高橋 学生は道場で何を求めているのでしょうか。

橋本 一言で言えば「愛」です。知識や技術だけでなく、師弟関係の中で背中を見せてもらおう経験を欲しています。親が医師でない学生にとっては特に大きな意味を持

ちます。

私は、人の成長には母性（包容力）、父性（厳しさ）、そして社会性（公共心）のバランスが必要だと考えています。しかし今の学生はどこかに偏っていることが多い。そのため、安心して頼れる存在——つまり「師弟愛」を体感できる環境が不可欠です。実際、ある学生は「医師になる自信がなく、辞めたい」と言っていました。が、現役の講師医師が自らの失敗談や乗り越えた経験を率直に話したところ、大きな勇気を得て、最終的に国家試験に合格しました。経験を語ることで若手を支える最強の教材になると実感しています。さらに、親が医師である学生の場合には別の課題があります。医師という職業がいかに厳しいかを幼少期から間近で見ているため、「自分には務まらないのでは」という過度なプレッシャーを抱えるケースが多いのです。道場では、そうした学生に「医師という仕事の楽しさ」や「やりがい」を伝え直し、職業観を健全に取り戻させることを意識しています。

高橋 先生のお話を伺うと、若手医師の行動や考え方の背景が理解できます。私から読者の皆さん（50歳以上の病院経営者やベテラン医師）にまとめると、「今の30歳前後の医師は、情報を与えられない環境で育ち、試行錯誤に不慣れ」「叱責や逆境の経験が乏しく、精神的に脆弱になりやすい」「その一方で、ITリテラシーが高く、新しい技術に柔軟」となります。つまり「打たれ弱い若手」ではなく、「時代が育んだ異なる資質を持つ

若手」なのです。そして病院経営者が注目すべきは、教育の有無が地域医療に直結するという点です。都市部では学び直しの機会がありますが、地方では難しい。だからこそ地域に根差した教育支援が医師確保そのものにつながります。だからこそ、地域に根差した教育支援を整えることが、医師確保そのものにつながるのです。

## 背中を見せることの重要性

高橋 そうです。第二に、「愛をもって支える」こと。母性的な包容力と父性的な厳しさ、その両方を持つて接する必要がある。若手は偏りやすいので、師弟関係を通じて安心して挑戦できる場を与えることが不可欠です。さらに言えば、「失敗を許容する文化」が重要です。若手は失敗を極端に

高橋 本日は、若い世代をどう理解し、どう育てるかについて大変示唆に富むお話をありがとうございました。橋本先生は、実は、日本の医療界で最大のフォロワー数80万人を超えるインフルエンサーでもあります。今回は、橋本先生に医療界におけるSNSの活用等について話しを伺います。

# 教育の有無が地域医療に直結する

——高橋



## 高橋 泰

Tai Takahashi  
国際医療福祉大学教授

たかはし・たい ●1986年、金沢大学医学部卒業、東京大学病院第1第3第2内科・麻酔科で研修。92年、同大学医学部医学系大学院医学博士課程修了（医学博士）後、米国スタンフォード大学に留学。94年、ハーバード大学公衆衛生校に武見フェローとして留学。97年4月、国際医療福祉大学医療福祉学部医療経営管理学科教授。2016年9月より21年3月まで安倍内閣未来投資会議の構造改革徹底推進会合医療福祉部門副会長を務めた